

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172300154		
法人名	有限会社 老古美興産		
事業所名	グループホーム「そよかぜ」岩内		
所在地	岩内郡岩内町字栄2番地10		
自己評価作成日	平成30年8月7日	評価結果市町村受理日	平成31年2月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&Jig_yosvoCd=0172300154-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	平成30年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は岩内につしかなないグループホームです。建物は2階建てで居住スペースは2階ですが階段には昇降機があり歩行困難な利用者様にも病院受診や買い物・外出を安心して行えるよう配慮しています。2階ホールは全面ガラス窓となっており夏の花火やななかまどの実りなど四季を通して景色を楽しむことが出来ます。1ユニットで、皆さんゆったりと過ごされており、ご家族との距離も近く、関係を大切にしています。利用者様にはその人らしいケアを心がけ、個々の好みに合わせた生活をして頂いています。家族交流会も年に2回開催しており、食事をして頂きながら利用者様、職員と楽しい時間を共有しています。またご家族同士が気楽に会話できるような空間作りにも努めています。ご家族様へ毎月発行している「そよかぜ」便りでは写真掲載し個々のお誕生日や日常の様子、体調の変化などを入れ、遠方のご家族様へも把握して頂ける様にしています。食事は家庭的なものを手作りしており季節の地場のものを取り入れ見た目や味で四季を感じられるよう心掛けています。利用者様に合わせ、食事形態にも工夫し食べやすさ、温度等に配慮しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は日本海を望む岩内町の中心部、銀座通り商店街に位置し、近くには文化センター、美術館、バスターミナル、道の駅等があり環境に恵まれている。木造2階建ての2階に1ユニットの生活空間があり、足腰が弱い利用者や車椅子利用者の為に電動昇降機が設置されている。居間・食堂は一体的で広い窓から明るい日差しが入り、商店街の並木、日本海を眺めて季節の移り変わりを感じることができ、利用者は家庭的な環境で穏やかな生活を過ごしている。利用者の平均年齢は87.7歳と高齢化し介護度も3.4(食事介助4名)と上がっているが、年2回、家族会を開催して家族との良好な関係を築き、職員は利用者や家族の立場に立ち会話を含め心を込めたケアを実践し、利用者や家族から「有難う」、「すまないね」など感謝の言葉をうれしく思い励みとしている。岩内町主催「カカシ祭り」に事業所も参加し利用者の作品が3年連続受賞している。また、町内の敬老会などの行事に参加して交流したり、近くの幼稚園児が来訪し歌や遊戯を披露するなど地域との交流が盛んである。管理者は職員のスキルアップに努め、上位の資格取得時には、事業所は受験料の支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
I.理念に基づく運営								
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた町、住み慣れた地域という理念を念頭に過ごしており、通いなれた美容室へ行ったり、昔なじみの友人も訪問してくれる。	理念を玄関と事務所、2階ホールに掲示し、職員会議等で周知して職員で共有し、ケアに反映させている。重要事項説明書とパンフレットにも明記している。				
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	障がい者施設が経営するカフェにお茶に行ったり、商店街の手作り市に参加もしている。	町内会に入会し、日課での散歩では住民と挨拶や会話を通じ交流を深めている。町内の清掃行事や敬老会、夏祭りに参加し、冬には事業所周辺の除排雪の支援を受けている。幼稚園児の慰問やボランティアが楽器演奏のために来訪して相互の交流を行っている。				
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の家族の会を手伝い、参加している。避難訓練で地域の人と交流している。					
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	避難訓練時の雪道の車椅子を押す体験や誤薬を減らす事へのアドバイスを頂いた。	行政職員、地域包括支援センター職員、利用者家族、地域住民などが参加して年6回開催している。運営状況の報告や行事予定、避難訓練の報告、行政職員からの情報提供、家族会からの報告等を行って、意見交換や要望を話し合いサービス向上に反映させている。				
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法改正になり減算項目にならない為のアドバイスを頂いた。	行政担当者とは密に連絡を取って窓口を訪れ、福祉に関する書類申請、継続手続きを相談したり助言を得ている。また、運営推進会議参加時にも助言、情報を得ている。地域包括支援センター主催の研修会に出席し協力関係を築いている。				
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯の為夜間は施錠している。口に指を常に入れる行動も家族と相談しながら見守っている。研修会に参加し職員間で	年に数回身体拘束の外部研修会に出席し、身体拘束の弊害を学んで職員会議で報告し、身体拘束をしないケアに努めている。利用者が外に出た場合には職員が同行して見守りを実践している。スピーチロックは全職員で注意をしている。拘束に関し書面で明示し、緊急やむを得ない場合は家族に説明し同意を得ている。防犯上夜間は施錠している。				
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自分たちの言動、行動を職員会議等で話し合い、虐待に繋がらない様に努めている。					

グループホーム「そよかせ」岩内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要性のある利用者さんはいないが研修等があれば参加し学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新たに入所された利用者家族に契約書の内容について説明し、入院中の水道光熱費について理解を得た。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の家族代表も交代制にしており家族会でも意見を言いやすい雰囲気作りをしている。面会時も聞き取りしケアプランの説明等も意見を頂いている。	利用者からは日常の会話や生活の中で、家族等からは来訪時などに意見や要望を聴くよう努めている。情報は介護記録に記入し、申し送りや職員会議、運営推進会議で取り上げ運営や介護計画に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が立ち寄る機会が増え何かあればすぐに相談できる環境にある。職員会議や勤務時に意見や提案が日常的に話し合われている。	代表者がほぼ毎日訪れ、職員と良好な関係を築いている。管理者は職員と日常的に要望や意見、気づきを話し合い、個別面談で意見や要望を聞く機会を設けて運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夜勤手当の賃金を上げてくれた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士の受験を勧め、受験料も支払ってくれた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新たに出来たグループホームの運営推進会議に出席し交流を深め意見交換をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面会し、本人との関係を築きながら不安な事や要望等に対応できる様、心掛けています。外泊希望者には月2回外泊してもらっている。下着を汚す事が不安な方には尿取りパットを使用してもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	痩せている事を心配していた家族には介護記録を見て頂きながら食事量を知って頂いた。7kg増え喜んで頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	旦那さんとの電話を希望されていた利用者には1日2回の電話ができる様にした。ケアプランにも取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のやりたい事を共にできる様、茶碗洗い、お膳拭き、テーブル拭きをほぼ毎日一緒に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出レクは車を出してくれようとしていたり、お祭りに一緒に同行してくれ車椅子も押してくれている。リホーム後の家に連れて帰りたいとの希望も聞いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	カットやカラーの為通っていた馴染みの美容室へ一緒に行っている。娘さんとの外食で馴染みの店に行っている。	アセスメントシートから知人、馴染みの場所を把握し、友人や知人の来訪があった場合は、個室やホールで会話できる環境を提供し落ち着いてゆっくり過ごせるよう配慮している。理美容院や喫茶店、洋服屋、商店街へは職員が同行しこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士、訪室したり物のやり取りをしている。そういう関係を見守っている。一人で居たい人は静かな時間を楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所になっても病院へ面会に行き、爪切りや顔剃り等を行いながら交流を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家に帰りたいと外出する際は、後ろから見守り危険な目に合わない様にしている。	アセスメントシートや日々のケア、家族の情報から希望、意向を把握するように努めている。困難な時は職員間で話し合い推測し、新たな意向があるときは家族に確認のうえ介護記録に記入し、ケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、家族や本人から情報を頂いている。センター方式の様式を使用し記入してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	要介護区分が1～5までの方がおり、台所作業ができる人から、寝たきりの方もおり、日々状況をみながら個々に合ったサービスを心掛けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	食事制限はあるが、家族と話し合い高齢の為好きな物を好きなだけ食べてもらえる様外食の機会を設けている。	利用者や家族の意向を反映させ、介護記録、職員や看護師の意見等を取り入れて計画作成担当者が4か月毎に介護計画を作成し、家族に説明して同意印を得ている。状況に変化があるときは、その都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に介護計画もいれており日々内容の確認ができチェックもしている。見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	何度か家族の希望があり、本人の実家に他利用者も連れて同行し、お茶も頂き会話も楽しんできた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年芝桜見学やアジサイ見学に行き、今回は小樽水族館まで足を運んで楽しんで頂いた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	指定の内科医が2週に1度の往診に対応している。必要時は指定医の指示で総合病院の受診をしている。必要時は歯科医の訪問往診もある。	利用者、家族が希望するかかりつけ医に受診できるように支援している。職員が同行し、結果を家族に報告している。協力医が月2回訪問診療を行い、看護師が利用者の健康管理を行っている。夜間緊急時には看護師のアドバイスや指示を受け協力医療機関と連携している。	

グループホーム「そよかぜ」岩内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな事でも報告し受診の判断や日々の処置のあり方、薬の使用指示も仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今回緊急入院となった方は、医療機関との密な連絡により、入院中の病状把握ができた。退院も連絡を受け翌日には対応できた。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医より入院を勧められたが、最後はここで迎えたいと家族より希望があり、皆で看取りに向け話し合った。	利用契約時に「看取りに関する要綱」に基づき、利用者、家族に説明し同意を得ている。重度化した場合は、家族や医療関係者と連携して方針を共有し、希望に添えるよう支援している。現在まで5名の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習は2年に1度定期的に全員で受けている。皮膚の裂傷を起こした時も対応処置出来ている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方と協力して年2回の消防訓練は日中、夜間を想定して必ず行っている。原子力防災訓練にも参加している。災害対策のマニュアルは作成中。	夜間及び日中を想定した消防訓練を、消防署職員立ち合いで地域住民や事業所関連業者などが参加して実施している。講評については運営推進会議で報告している。カセットガスコンロやポータブル石油ストーブ、飲料水と食料品等は2日分以上備蓄している。非常災害対策計画については作成中である。	昨年度の次のステップに向けて期待したい内容、「社会福祉施設等における非常災害対策計画の策定の手引」を参考に計画等の策定や見直しをすることについては、災害対策計画を作成中であり、マニュアルの完成を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	抵抗して暴言を言う利用者に対して、つい声がかつくなる為、皆で勉強会をして改めている。	利用者の人格を尊重し目立たなくさり気ない介助に努め、馴れ馴れしい不適切な言葉を使わないケアを実践している。氏名や写真掲載等のプライバシー保護は入所時に説明して同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日どうしたいか思いを聞いている。話せない方も、本人の想いを汲み取れるよう言葉かけを多くしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	帰りたいと言う時には外へ一緒に行き、傾眠している時はソファで寝てもらったり、眠っている時は食事をずらしたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の長い利用者には編み込みをしている。一緒に買い物に行き好きな洋服を選んでもらっている。		

グループホーム「そよかせ」岩内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホットプレート調理は職員と一緒に利用者に行ってもらっている。本人の誕生日は食べたい物をメニューに入れている。	メニューは職員が作成し、食材は旬のものを含め1週間分をスーパーに発注して毎日配達され、利用者の希望を聞いて職員が調理している。行事食や誕生日にはケーキや好みのもので祝い、年2回程度外食して楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は個々に対応している。嫌いなものには別メニューを用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	舌に汚れが目立つ利用者は舌ブラシをかけても落ちず、お茶を辞めると綺麗になった。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツを使用していた利用者は布パンツになった。(おむつ使用者3名、夜間リハビリパンツ使用者2名、綿パンツ使用者6名)	排泄チェック表をもとにパターンを把握して、動作やサインを見逃さないように努め、自立排泄を支援している。日中は布パンツで夜間はリハビリパンツを使用している。また、失禁時には目立たないよう介助を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	以前は食物繊維や乳製品を多くし排便がスムーズになった。現在は本人に合った水分量をこちらで管理し摂取してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤の色で変化を付けると楽しんでいる。午後からの入浴に機嫌が悪くなる人には、午前に入ってもらっている。	週2回の入浴を基本とし、希望や状況によって清拭や足湯、シャワー浴等の支援をしている。入浴剤を使用してリラックスできるよう工夫し、湯舟はかけ流し状態にして清潔な状態を維持している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々によって異なり、その人に合わせている。日中の傾眠時も居室やソファで休んでいる。小球が苦手な人には暗くして寝ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導を導入し、薬剤師から直接教えて頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	大好きなお寿司を食べに行ったり、喫茶店でくつろいでいる。その時期に合ったドライブや散歩も個々に出掛けている。		

グループホーム「そよかせ」岩内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	イベントがあった時に出掛け、家族の協力も得ている。	周辺を散歩をしたり、町内のお祭りや出店の見学に行ったりしている。花見や紅葉、水族館見学など遠方の外出では家族同行で出かけ利用者は楽しんでる。また、ミニドライブで外食や近くのニセコへ出かける等、気分転換が図れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預かっているが、お孫さんの面会に利用者本人の手からおこずかいを渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日、夫にかけている。日に2回かける事もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	西日が入るのでカーテンを利用している。利用者が寒さを感じ窓を閉めたりしているが自由に過ごしてもらっている。季節を感じて頂く為、壁に季節の装飾をしている。	ホールは食堂と一体型で広く、大きな窓からは十分な採光を取り入れている。窓からは港祭りや花火大会が眺められ、季節の変化を楽しみながらゆっくりと過ごしている。ホールには観葉植物や季節の飾り物を置いて、壁には行事の写真や手作り作品、刺繍等を飾って居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いの椅子やテーブルで仲の良い利用者同士、会話を楽しんでいる。ソファでくつろいでいる利用者もいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	初めから使い慣れたものを持参してもらっている。椅子のない利用者に椅子を貸し出している。	クローゼット、温水パネル、物干しポール(乾燥防止)が備え付けられ、使い慣れたベッド、整理タンス、椅子、ソファ、仏壇等を持ち込み、居心地よく過ごせるような工夫をしている。掃除は職員が行うが本人の要望に沿う様に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわかりやすい様に目印を付けている。立ち上がりに不安のある利用者の居室にはテーブルを置いたり、手すりを付けている。		